

活動区分	地域活性化型	連携先	自治体・国
	イベント企画型		
	イベント支援・運営型		

～ スポーツイベントの企画運営 ～

活動の様子



取り組む課題

赤穂シティマラソン大会は過去に何度も全国ランニング100選に選ばれる市民マラソンであるが、現在市民マラソンと呼ばれるマラソンイベントは全国で2,000から3,000あると言われており、差別化が困難な状況になっている。また、コロナ禍で市民マラソンに参加するランナーが減少するなど、市民マラソンの継続は年々難しくなっている。そのため、学生の視点から、企画提案を行ったり、現場にて実習を行うことは、流通科学大学にとっても、赤穂市にとってもWin Winの関係であると思われる。



本学(学生)の役割

赤穂シティマラソン大会当日は2グループに分かれ、活動を行い、実習後は現場で得た課題を基に、4グループに分かれ、行政に対する提案をパワーポイントにて作成した。指導教員は、赤穂市との調整ならびに当日のイベント時に、事故や怪我がないか、細心の注意を払いながら、参与観察を行った。赤穂市は、授業での講義、現場での指示、サポート、及び授業最終日のプレゼンテーションの審査と多岐にわたる役割を担った。

企画・活動概要

本プロジェクトでは、赤穂市教育委員会スポーツ推進課と協働で、赤穂シティマラソン大会活性化に向けた社会連携を行った。本社会連携企画では、1)個人ワーク、2)担当者からの情報提供、3)グループワーク、4)現場実習、5)プレゼンテーション資料の作成、6)最終プレゼンテーションという流れで授業を進めた。最終プレゼンテーションでは、これまでの活動を踏まえ、各グループがオリジナルの企画を担当者に対して提案を行った。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

活動の成果として、本社会連携は4年目を迎え、赤穂市との関係性が強固になっていることが挙げられる。また、イベント当日は、流通科学大学のブルーのジャケットを着て活動を行うため、赤穂市の方々やイベント参加者に対する流通科学大学の認知度向上に寄与している。また、学生にとっては、現場実習や行政に対する提案を行う企画は、大変貴重な経験であることから、主体性やプレゼン力、行動力等、様々な能力が本社会連携を通じて身についたと思われる。



経緯・背景・目的

本プロジェクトの目的は、赤穂シティマラソン大会を題材に、スポーツイベントの企画運営を学び、実際に行政に対する提案を行うことであった。ボランティアとしてイベントに関わることは多くあるが、イベントで得た課題を実際に行政の方に提案するといった企画は、アクティブラーニングの視点でも大変有効的だと考えられる。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間健康学科
准教授
山口 志郎(ヤマグチ シロウ)

<専門・担当科目等>
スポーツマネジメント、
イベントマネジメント、
スポーツツーリズム

<関係者・企業等>

赤穂市教育委員会 スポーツ推進課
課長
笠原 裕之(カサハラ ヒロユキ)